

留学先大学：清華大学

留学先での所属学部・研究科：法学部

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2012年9月～2013年7月

神戸大学での所属学部・研究科：法学部

学年（出発時）：3年

本報告書記入日：2013年8月31日

**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	刑事訴訟法	張健偉	3	3	150	評価は期末テスト100% 指定教科書とレジュメが大事
2	外交学	趙可金	2	2	50	授業の出席とレポート提出が必須
3	ネットと電子 商務法	呉偉光	2	2	50	前8週の授業、レポート評価
4	国際法	張新軍	3	3	100	先生のレジュメと教科書の勉強が大事 授業中に小テストや模擬仲裁裁判も行われる
5	国際私法研究	陳衛佐	3	3	10	先生の教科書を基に進む。後は授業で配られる参考資料にも目を通すといい。
6	比較憲法	屠凱	3	3	10	少人数ゼミ。毎回テーマがあり、参考書を基に議論をする。レポート提出。
7	中国憲法の理論と実践	王振民	3	3	20	研究生の選択授業。途中でレポート提出。参考書は特になし
8	仲裁法	陳健民	2	2	30	仲裁の手続き、制度について学ぶ。最後に模擬仲裁を行い、成績評価とする。
9	行政と行政訴訟法	田思源	3	3	150	期末試験100% 指定教科書をよく読む事が大事
10	環境と資源法	鄭海峰	3	3	50	先生が毎回レジュメを配る 二回のレポート提出。

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

授業は必修と選択授業があり、人数も150人以上のクラスもあれば、30人に満たないクラスもある。法学部の授業やコース内容、カリキュラムは日本と似たところが多いが、中国の法律や手続き特有の事象について学ぶ授業も多い。成績評価も各クラスによって様々で、出席点などの平常点、普段の小テストやレポートの提出状況、期末試験等様々な成績評価方法がある。現地の学生は非常に真面目で勉強熱心な学生が多い。朝から夜まで図書館で自習を続け、授業が終わればまた自習へ戻る、といった学生もよく見かける。また、多くの授業では、先生が毎回講義を終えた後学生が拍手をする。日本ではあまり見ない光景なので印象的だった。

**費用について**

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：10万円（往復）

・住居費：（月額）3万6千円 ×（留学月数）10ヶ月 = 36万円

・食費：（月額）4500円 ×（留学月数）10ヶ月 = 4万5千円

・保険料：10万円

・その他：普段の生活費諸々が、3000円程度

合計：4.5万程度（学費含まず）（留学期間全体の費用）

## その他 自由に記入してください。（800字～）

私が中国へ向かった2012年9月は、ちょうど日中関係が緊迫しているときで、日本人留学生も多分にその影響を受けていました。

もともと海外交流や国際協力に興味があり、中国語を大学から勉強し始めて、それを活かしたいと思っていたのですが、最近の日中間の政治的・経済的な結びつきを考え、今後日本はもっと中国の内情や法制度を知る必要があると考えました。そこで、大学2年生の後期から中国留学へ向けて語学勉強等の準備を始め、3年生の秋に出発しました。

しかし、冒頭で触れたように日中の政治的な衝突もあり、現地の方とは、はじめ思うように交流を図る事が出来ませんでした。現地邦人向けのイベント等もあったのですが、土壇場で中止になることもありました。また、ニュースやネット、普段の町並みの様子から、排日的な空気を感じる事もよくありました。ただ、大学で中国人学生と交流するときは、世間の険しい雰囲気を感じる事は殆ど無く、あくまで学術間交流として、政治のそれとは異なり、親しく接してくれたように思います。

また、中国の学生からよく言われたのは、政治上の国同士のいざこざはあるが、若者同士の交流がそれによって阻害されることは好ましくない、という意見です。私もそうだったのですが、無意識のうちに交流の幅を広げる事を避けていたような節がありました。しかし、現地の中国人学生達は私たち留学生の話をととても真摯に聞いてくれて、私たちがどんなことを感じているのか、どういう考えを持っているのかについても、とても興味深く聞かれました。彼らは積極的に交流を持とうとし、また日本の文化や価値観についても非常に興味を持っているように感じました。

その他に私が現地で感じたのは学生の熱心さが全然違うという事です。多くの学生は授業時間以外を自習に当て、授業中でも最前列が埋まっていたり、よく質問に行ったり等、彼らの授業に対する姿勢は見習うべき物があると感じました。

語学に関しては当初殆ど授業について行くのもおぼつかない状況だったので、ひたすら先生の話聞き、オフィスアワーにも足を運び、また日本人学生同士で語学勉強会を開いたりして、授業以外でも積極的に語学になじんでいこうと努力しました。また、海外の留学生とも積極的に交流を持ちたいと考え、国際交流イベントに参加したり、授業以外でも話す等して、コミュニケーションを取りました。そのかいもあり、中国語と英語でのコミュニケーションは格段に向上したように思えます。

住環境で言えば、北京は日中の温度差が激しく、最高温度と最低温度の差が20度以上ある日もよくありました。また冬は想像以上に寒く、マイナス30度の時は、本当に授業以外は一步も寮を出たくないとすら思いました。ただ、春や秋は比較的過ごしやすいと思います。

1年間の留学を終えて思ったのは、当初考えていたよりあっという間だったということです。また、こういう微妙な時期だったからこそ、普段触れないような中国人の生の声を聞く事が出来たようにも思えます。また、アジア諸国への留学というのは、金銭的にやや余裕があるということと、色んなバックグラウンドを持つ人々に出会えるという意味において本当におすすりめだと思えます。加えて、新興国、発展途上国の学生というのは学ぶ事にどん欲で、好奇心が強く、一緒に生活するだけでも多くの刺激をもらえるような気がしました。これからの自分のキャリアや将来を考えたとき、私はこの留学プログラムに参加した事で新たな発見や価値観を身につける事が出来、本当に行って良かったと思えます。また、留学を機に世界各国で様々な友人や知り合いを持つ事が出来たのも大きな収穫でした。

このような機会を与えてくれた学校や両親、また日々色んな事を相談したり励まし合った友人たち、皆に感謝の心を述べたいと思います。本当にありがとうございました。